

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000331
法人名	有限会社たちばな
事業所名	グループホームたちばな
所在地	伊予市灘町136番地2
自己評価作成日	平成29年 3月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/38/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3871000331-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ゆったりと、本人らしい生活を送れる空間を目指しており、協力医院と連携して終の棲家として選ばれるグループホームである。また、お客様に愛と夢と感動を〜「明るく」「楽しく」「元気よく」をモットーに挨拶、靴を揃える、電話3コール以内を実践している事業所であり、それができなければ良いサービスはできないと考えて行動している事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 管理者もシフトに入り、ケアに取り組みながら職員の声を聞いている。11月から、毎週ミーティングを行っており、職員間で業務やケアについて話し合ったり、情報共有し意識統一を図っている。欠席した職員は、必ず連絡ノートで内容を確認し、サインをしている。子育て中の職員は、子どもを連れて勤務してもよく、働きやすさにつながっている。
- テーブルの上にお手玉や新聞を置き、話題にしたり手に取れるようにしている。毎月、季節に応じた貼り絵の作品をつくり、廊下に掲示している。所々に抗菌加湿器を設置し、湿度管理も行っている。廊下等、各所にブザーを設置しており、必要時に利用者や職員が押して手伝いを呼べるようにしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームたちばな

(ユニット名) グループホームB棟

記入者(管理者)

氏名

松本 京子

評価完了日

平成29年 3月12日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・フロアーに掲示しいつでも目に入るようにし、スタッフ間で共有している。月1回の会議の際は全員で唱和し常に理念を中心にご利用者に接することを心がけている。	
			(外部評価) 昨年11月に経営者が替わり、理念についても新しくなっている。利用者をお客様と捉え、理念に、「愛と夢と感動を〜『明るく』『楽しく』『元気よく』」と揚げ、明るい雰囲気作りに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・地域の行事に参加し、ブースにて介護相談や健康チェックを行っている。 ・施設行事等に地域の方を招いて餅つきを行ったり施設見学も行っている。その際、地域の方が行っているフラダンス等のチームを招き慰問として日頃の練習の成果を披露していただいている。 ・最低年1回は定期的に事業所新聞を発行している。	
			(外部評価) 管理者は、地域サロン等に出向き、介護保険について説明する等している。地域行事への参加や併設デイサービスと合同で行う文化祭に案内し、地域交流を行っている。民生委員は、運営推進会議時に事業所内を見学した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・自治会場や公民館を利用し、介護保険の説明会を実施している。 ・定期的に消防署との連絡をとり、非常時の対応や応急処置の方法を学ぶようにしている。 ・概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・地域の民生委員、行政の方、利用者様のご家族にも出席いただき、ご指摘を頂いた事や希望に関しては改善、実施していくようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>10月の会議時には、経営者変更について説明を行った。又、12月の会議では、利用者の状況を報告し、参加者の意見を聞いた。この一年間では2回の会議開催にとどまっている。さらに、今後は、利用者の会議参加や会議内容についても、サービス向上につながるよう、取組みを工夫していったほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・空室、待機状況を月1回定期的に情報提供している。 ・ケアプランや基準など疑問点については市へ確認を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市からの傾聴ボランティアを受け入れている。運営推進会議時に、市の担当者が参加しており、事業所の取組みについて意見等がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・身体拘束を行わないケアを実践している。権利擁護・虐待・拘束に関する勉強会を実施。研修等にも参加していけるように調整を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関等の様子を映す防犯カメラは、併設デイサービスを閉じている時間帯に使用している。ユニットの出入り口も、同時時間帯に施錠している。さらに、身体拘束については、職員が弊害の理解も含めて繰り返し勉強できるように、研修計画を作って実施してほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待等が見過ごされることのないよう注意を払い、権利擁護に努め積極的に研修等に参加する方針。 ・入浴、排泄時にご利用者様の身体チェックを行い受傷原因・経緯を検証して注意喚起している。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が権利と尊厳に対する意識を高め、法や制度を理解し、講演会や研修会に積極的に参加しなければいけないと意識している。また、ホーム内でディスカッションを行い、理解を深めることができるように努めている。 ・行動制限、虐待、身体束縛等に関しても人権意識を持ち、確認しながら支援している。 ・苦情についても、密室化せず、社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った解決を進めている。 ・家族に対しても、情報を開示し伝えている。 	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約時にはホームの重要事項の説明を十分に行い、利用料の支払い、介護計画、個人情報保護についての取り決め、医療連携体制、利用契約書に利用者及び家族の署名、捺印を頂き、確認しながら行っている。 	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の関わりを通じて、言動や振る舞いから、職員にメッセージやサインを送られていたり、利用者間同士の会話からキャッチすることもある。自身の思い、意見を上手に表すことが難しい利用者でも、嫌がること、好むことなどを言動から本人の意向を探っている。 ・施設玄関に意見、苦情受付箱を設置し、相談、受付窓口職員を明記し公的窓口の紹介も掲示している。運営推進委員会の中でも、意見、希望を吸い上げ意見を反映している。 <p>(外部評価)</p> <p>毎月の書類送付時に、利用者の様子を書いた手紙を添えている。家族には、利用料金を持参してもらうことになっており、必ず月1回は訪問がある。その他でも来訪は多く、その都度、管理者が様子を報告している。文化祭時には案内して一緒に楽しんでいる。経営者変更にあたっては、代表者が家族一人ひとりと顔を合わせて説明等を行った。</p>	<p>4月から事業所便りを月に1回発行する予定がある。又、利用者の誕生会を家族と行うこと等を検討していた。家族は利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーであり、一緒に活動するような機会を工夫して行ってほしい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・週1回の部署ミーティング、月1回の全体会議を開催し職員とのコミュニケーションを図る時間を多くとれるように努めている。	
			(外部評価) 管理者もシフトに入り、ケアに取り組みながら職員の声を聞いている。11月から、毎週ミーティングを行っており、職員間で業務やケアについて話し合ったり、情報共有し意識統一を図っている。欠席した職員は、必ず連絡ノートで内容を確認し、サインしている。子育て中の職員は、子どもを連れて勤務してもよく、働きやすさにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・ハローワーク、職員の紹介等で、確保するように努めている。 ・職員相互の親睦が図れるよう、交流会を行っている。 ・人事制度の内容を理解してもらい、資格手当等を明確にしモチベーションが保てるように努力している。 ・定時で帰宅できるように努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・理念、クレドの理解、把握に努めている。 ・定期的に研修や勉強会に参加すると共に、リーダーシップとフォロワーの関係にて業務の分散化に努め、管理者、リーダーが行う業務、スタッフが行う業務それぞれ偏りが無いようにすることで、全員が業務を覚え実施できるように努めている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・定期的に同業者との交流会、勉強会にも参加しネットワークを広げ相互サービス向上の刺激を受けあえるように努めている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・本人の話をよく聞き、コミュニケーションをとる時間を多くとり少しでも早く信頼関係を結ぶことができるように努めている。 ・利用者を介護される一方の立場に置かず、一緒に食事作りや、洗濯たたみ等、かかわりながら喜怒哀楽を共に、利用者から学んだり、支えあう関係作りをしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・経済面、生活面、健康管理・医療についての連携や流れ、悪化時のホーム側の対応を説明し、安心して利用していただけよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・アセスメントを元にニーズを明確化し、必要なサービスを提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生活する家族として考え、なんでも言いやすい関係、雰囲気作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・希望や要望を言いやすい関係、雰囲気作りに努めている。具体的に、面会時は必ずご本人の最近の状況を伝え、ここに入居して良かったと感じていただけるように努めている。 ・挨拶、靴を揃える、電話3コール以内、整理整頓を徹底することで、ご家族の信頼が深まると考え実施している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・面会に来ていただいたり、こちらから会いに行けるように支援している。また、馴染みの場所への外出やお墓参りの支援もおこなっている。	
			(外部評価) 家族が連れ出して支援するケースが多いが、家族の支援が難しい利用者については、墓参り等は、職員が時期をみながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・食事の際、おやつの際、レクリエーションの際など、コミュニケーションが円滑に進むよう、席も考え必要に応じて職員が間に入っている。中々部屋から出ない方にも、お茶はホールまでもらいに来るなど、簡単な役割を持っていただき、閉じこもりを避けるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・契約終了後も、何かあればいつでも連絡ができることを伝え、必要に応じて相談、助言を行い支援し続けることができるよう努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・本人の動きや言葉、表情等をしっかり受け止め、ゆっくりと利用者のペースに合せ、一人ひとりのその日の「したい事」など希望に沿って支援している。 (外部評価) 「今日何する？」等と聞いて折り紙や塗り絵等ができるよう留意したり、歌を歌いたい利用者には、デイに遊びに行き一緒に活動できるよう支援している。耳が聞こえにくい利用者には、ホワイトボードを使ってコミュニケーションを取ることもある。お茶の時間には「コーヒーとお茶どっちがいい？」と希望を聞くこともある。	さらに、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、終末期の希望等、利用者が主体の暮らしを支援できるように、情報収集や整理に取り組んでほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・面接時に出来るだけバックヤードを聞き取り、了承いただいた方にはわかる範囲で家族に記入していただく様にしている。 ・個人ファイルに生活歴や生活環境など記入し職員が把握出来る様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・介護記録にて1人1人の生活リズム、状態が把握出来る様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			・面会等で御家族のケアに対する意見等を聞く様に努めている。1月に1回、協力医とのカンファレンスを設けている。	
			(外部評価)	
			介護計画は、ミーティング時に職員からの情報を聞き、計画作成担当者が立てている。	介護計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録し、職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげていけるよう、取り組みをすすめてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録に記入し、朝・夕の申し送り、その他声を掛け合い随時、情報を共有し実践、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			・現在対象者は居ないが、いつでもニーズに応じて柔軟な対応が取れるように配慮している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			・地域ならではの環境を活かしながら、地域の方にも協力依頼をし、散歩や買物をする等御本人の気持ちにより添えるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	<p>・本人、ご家族の希望を尊重し、納得の上で24時間オンコールの体制で適切な医療を受けることが可能となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力医に受診に行ったり、必要時には往診がある。介護計画は協力医にも確認してもらっている。調査訪問日には、看護職員が利用者のリハビリを行っていた。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	<p>・訪問看護師に健康状態や適切な処置を受けれている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	<p>・入院時には介護サマリーを準備し配布している。早目に本人の状態確認に伺い、MSW、担当Ns.に聞き取りを行っている。週に1回は連絡を行い、退院に向けての確認を行って、病院関係者との友好関係を築いている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	<p>・入居時に説明を行う。早い段階で家族と相談し、医師との話し合いの場を設けている。又、医師・看護師のアドバイスの元、支援を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在、家族から看取り支援の希望が多くある。必要時には、家族が協力医と話し合う機会等が作れるよう支援している。家族が居室に泊まることもできる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・他部署、主治医と連携して急変時や事故の時など、応急処置の訓練を行っている。 ・消防署に来ていただき、AED使用時の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・定期的(年2回)に避難訓練を行っている。 (外部評価) 女性消防団に所属する職員が、地域の防災活動に参加している。11月からAEDを設置しており、職員が正しく使用できるよう講習を受けている。	今後は、年2回の避難訓練に加え、毎週のミーティング時に防災意識を高める取り組みを行うことを検討している。立地条件や利用者の状態、職員の体制等を踏まえ、いろいろな場面を想定した訓練を繰り返し行ってほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・一人ひとりの性格を把握し、言葉使いに気をつけ声かけを行っている。居室訪室の際も必ず本人様の許可を得てから対応している。 (外部評価) 職員は明るく、元気の良い声であいさつし、方言を交えた言葉かけ等で対応していた。職員によっては利用者を、「ばあちゃん」「~ちゃん」と呼んだりしている。居室入口のドアは開いていた。	利用者の暮らしの場に、職員の言葉かけや対応が適切なものとなっているか、職員個々が定期的に点検できるような仕組みを作ってはどうだろうか。事業所の質向上につながることもあり、取り組みに力を入れていってほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・思いや希望をゆっくり時間をかけ聞く様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・基本の流れはあるものの、本人らしい生活が送れるように強制はせず、本人の生活リズム、意思を尊重するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・起床時、就寝時には生活のメリハリはつくように着替えを行い、季節に応じての衣服でおしゃれができるように努めている。 ・髪のカットなど希望があれば美容院へ付き添って行っている。訪問美容もしていただいている。 ・洗面、整容にも配慮し、目やにを付けたまま、寝癖が付いたままといったことがないように努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・準備や、食事、片づけが可能な方には一緒に行っていただくようにしている。 (外部評価) ユニットによっては洗い物を一緒に行う利用者もいる。ごはんと汁物は事業所で作るが、「衛生上」、おかずは出来たものが届き、湯せんして配膳するようになっている。味をつけ直したり、プチトマトを添えて彩りを加えたりしている。又、食事がすすまないような利用者には、プリンやせんべいを用意したり、家族が好きなものを持参する等している。食器は事業所で軽いものを揃えている。食後の口腔ケアについては、朝、夕食後のみの支援となっている。	現在の食事支援のあり方について、食事を楽しむという視点から点検し、支援に工夫できることはないか話し合ってみてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・食事量・水分などチェック表に記入してひと目でわかるようにしている。 ・異変のある方については毎日、協力医にFAX、電話等で報告を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・自分で出来る人は行ってもらい、出来ない人は職員介助にて口腔ケアを行っている。口腔体操も実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。 	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの食事量、水分量を把握し、最終排便の確認を日々行い、必要に応じて協力医の指示を仰いでいる。 ・午後からのリハビリ体操やレクリエーションを通して運動を働きかけている。 	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思を尊重しながら入浴を実施している。保清・感染防止のため最低でも週2回の入浴（清拭）とはしているが、体調や拒否により変更もある。特に拒否があった際は、声をかける時間を変え、人を変え工夫して入浴を促している。 	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、本人の希望があればソファや居室で休息をとってもらっており、夜間も本人の就寝時間に合わせるようにしている。 ・室温、湿度も定期的に確認し安眠できるように努めている。 	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・処方箋をファイルに綴じ、スタッフが閲覧できるようにしている。服薬内容の変化があれば協力医または看護師より報告があり、スタッフ全員で共有できるようにしている。 ・薬の管理は必ずNs.が行うこととしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・食器拭きや洗濯物などを手伝ってもらったり、簡単なゲームやカラオケなどレクリエーションも行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・気候が良ければ散歩に出かけられるように配慮している。 ・家族の方が面会にこられた時に一緒に買物に行かれたりしている。 ・お祭りの際は、希望にて駐車場まで降り地域の方が協力していただき普段味わうことができない雰囲気を楽しむことができる。 (外部評価) 併設デイサービスの外出時に一緒に行くようなことがある。又、天気の良い日には職員から提案して出かけている。さらに、近くの「道の駅に行ってみよう」等の希望があれば、出かけられるよう支援している。家族が来訪して連れ出すことができ、重度の利用者は、受診時が外出の機会になっている。	さらに、今回の家族アンケートの結果をもとに、外出支援の取り組みに工夫してみしてほしい。利用者がこれまでどのような外出を好んでいたか探り、外出先等も話し合ってみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・自己管理出来る方にはして頂いているが、大きな金額は持たないように、本人、家族に促し、現在、幾ら所持しているかを確認している。自己管理できない方に関しては、会社で保管し、必要に応じて使用していただき、毎月、ご家族に残金をお知らせしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る人はしてもらって、出来ない人は職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃をし、いつも綺麗な状態で居心地よく過ごしてもらえるようにしている。 ・季節感を採り入れるという工夫がされていない。 ・温度計で温度管理を行っている。 ・定期的に換気し、空気の入れ替えを行い、感染予防、臭いが籠らないように配慮している。 <p>(外部評価)</p> <p>テーブルの上にお手玉や新聞を置き、話題にしたり手に取れるようにしている。毎月、季節に応じた貼り絵の作品をつくり、廊下に掲示している。所々に抗菌加湿器を設置し、湿度管理も行っている。廊下等、各所にブザーを設置しており、必要時に利用者や職員が押して手伝いを呼べるようにしている。家族来訪時には、居間のソファーに座って過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用の場所を設けて利用者間同士でコミュニケーションをとったり、独りで過ごすことができるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族と相談し使い慣れた物など取り入れて好みの環境になっている。 <p>(外部評価)</p> <p>掃除チェック表を各室の入口に設置してチェックし、清潔保持に努めている。朝や不在時には換気を行っているが、居室によっては、臭いが気になるようなところもある。「寒くない？」等と聞いてエアコン等で温度管理を行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの位置や、手すり、ソファーなど本人が出来るだけ残存機能を活かすことができるように配慮している。 	